

競争とマイクロファイナンス機関パフォーマンス

神戸大学大学院 甲斐 久子

近年、マイクロファイナンス機関（以下 MFI と明記する。）の間での競争が多く国で見られる。社会的（貧困削減）達成を目的とする MFI が既に存在する市場に、利潤追求型 MFI が参入してきている動きが多く国で出てきた。この競争環境の変化が社会的 MFI の財政パフォーマンスに大きな影響を与えていると推測できる。

社会的 MFI は予算制約の下、できるだけ貧しい顧客（Wide Outreach）に、また、できるだけ多くの顧客（Length Outreach）に貸付できるように行動する。また、MFI は生産的な顧客（裕福層）への貸付から得る利得を非生産的な顧客（貧困層）への貸付に補助する（以下これをクロスサビディイーと明記する。）ことによって、非生産的な顧客へのアウトリーチを可能にする。しかし、市場競争が激化すれば、これらの MFI の行動は変化を余儀なくされる。

一般的に、市場競争は均衡価格を低下させ消費者余剰を増加すると評価されるが、MF 市場においては競争激化による負の影響の方が深刻である。主に、新規 MFI の参入により以下の 3 つの競争モデル①Bertrand 競争、②生産的顧客の脱退、③複数機関からの借入が生じると考えられ、これらのモデルが最貧困層顧客に負の影響を与えると予想される。これらの競争モデルでは、利子率の低下・デフォルト率の悪化が起き、その結果クロスサビディイーの減少により、社会的 MFI は運営費用の高い最貧困層への貸付を排除するようになる。

この理論的考察から、仮説 1 競争はデフォルト率を悪化させる、仮説 2 競争は利子率を低下させる、及び仮説 3 競争はアウトリーチに負の効果を与えるという 3 つの仮説をたて、実証分析していく。本稿では、85 カ国の途上国に存在する社会的 MFI の 2003 年度から 2006 年度までの財務データを下に、仮説 1 については変量効果モデルを、仮説 2 及び仮説 3 については Hausman and Taylor の手法を用いて実証分析した。

実証結果によると、市場競争がデフォルト率に影響を与えるという仮説は棄却されたが、競争が利子率を低下させるという仮説、及び競争がアウトリーチを低下させるという仮説は採択された。従って、市場競争激化によって利子率が低下し、クロスサビディイーの減少を受け、最貧困層が市場から排除されていると考察できる。